



まちを彩るその個性

第9回福岡市都市景観賞

まちの魅力をつくりだしている建物や広場、企画や活動などの関係者の努力をたたえ表彰することで、市民や事業者の意識が高まり、さらに美しい景観づくりへとつながっていくように、1987年に福岡市都市景観賞を創設した。第9回を迎えた1995年度は、561通の応募はがき、168件の物件のなかから、8件（一般表彰7、特別表彰1）が決定、第1回からの表彰物件は59件となった。1996年度は第10回を迎えるため、より多くの市民に参加していただけるよう、記念シンポジウムをはじめとする多彩なイベントを開催することになっている。

総評

1995年は、ユニバーシアード福岡大会が開催された年であった。さまざまな装飾やサインがまちを彩り、これらのデザイン活動で培われた経験は、後世への啓示となったであろう。このような年だけに、応募総数も561通と高まりをみせた。

一般表彰では、A部門は「博多町家」ふるさと館、ピンクハウス博多ワールド、B部門は海の中道海浜公園マリワールド海の中道、シーホークホテル&リゾート、C部門は諸岡池、D部門ではキース・ヘリング彫刻、天神かっぱの泉が、それぞれ選ばれた。

応募作品は年ごとに多様になり、豊かさを増していくようだ。選考の過程で、福岡市の都市景観が住民の創意工夫と努力によっていかに魅力度を

増し、個性や文化性が高まりつつあるかを確認できた。すぐれた創造性により、まちを刺激し、象徴的で景観の先導性を形成している作品が、B部門では多く見られた。A部門、C部門では、地域の個性や文化性を活かし、まち並みへの配慮に意をはらっているものが目立った。また、人の感性にはたらきかけて、今までなかった芸術的新風を送るものとしてD部門の作品は魅力的であった。これら応募作品のすべてがまちの景観形成の重要な要素として機能していくに違いない。

さらに、特別表彰が決定した「東区みどりが丘の花と緑のまちづくり活動」が全市のモデルとなる住宅景観として、さらに魅力的に熟成されることを心から念じている。

審査委員長 中村善一

〔表彰対象〕

一般表彰

福岡市内にあるもので、次のいずれかにあてはまるもの

- 福岡の個性的、魅力的な景観づくりに役立っているもの
- 自然環境や歴史的まちなみと調和し、その雰囲気を高めているもの

文化財保護法により指定されたものや、すでに福岡市都市景観賞を受賞したものは除く

部門

A部門（小さな建物）

戸建住宅、店舗、幼稚園、病院など

B部門（大きな建物や工作物）

マンションなどの集合住宅、商業ビル、ホテル、橋、塔など

C部門（まちなみ・空間）

まちなみ、通り、遊歩道、ショッピングモール、広場、公園、住宅団地、商店街、河川空間、

オープンスペースなど

D部門（街角のアクセント）

モニュメント、広告、サイン、アーチ、

電話ボックス、停留所、街路灯、ベンチ、塀など

特別表彰

- まちづくりなどにおいて、都市景観形成への配慮や努力がおこなわれた企画や行為
- 景観意識の普及活動や都市景観形成につながる地域活動・イベント開催などの企画や行為

その他、都市空間の創造、演出につながる企画や行為